

〔青木美智男先生追悼〕

## 青木美智男先生との思い出

日 高 義 博  
(専修大学理事長)

専修大学理事長の日高でございます。青木美智男先生を偲ぶ会で最初にお話をさせていただくことになりましたが、急なご逝去でありましたので、誠に残念でなりません。青木先生は著名な歴史の研究者ですが、研究分野の全く異なる私とも気さくに付き合っていたいただきました。青木先生と私の共通項は、絵を描くことだったと思います。年賀状などには、いつも水彩画が描かれていました。

青木先生と頻繁に話すようになったのは、専修大学の大学院委員会に文学研究科委員としてご出席されていた頃からだと思います。当時、私は学長として議長を務めておりましたが、大学院学生を教育し、研究者に育てるには何をなすべきかを常に考えておられましたので、先生の情熱あふれる発言に説得されたことが多々ありました。青木先生の薫陶を得て若い研究者が育ってきていることは嬉しい限りです。また、大学の研究力を発信する場として専修大学社会知性開発研究センターを設置しておりますが、そこでの歴史関係の研究拠点において青木先生の存在は大きなものでありました。

さらに、専修大学創立一三〇年記念事業を展開するに際して、青木先生には、専修大学の歴史的史料の収集作業や講演などにも参画していただき、幅のある事業を推進することができました。その後、青木先生はご定年になられましたが、理事長の直轄部署において専修大学史編纂の作業を行うことになり、青木先生に主幹として参画していただきました。先生には快くお引き受けいただき、今日まで着実な歩みを見せております。その一つに、専修大学史資料集全一〇巻の編纂作業が進んでおり、今年度は第三巻「五大法律学校の時代」が刊行されます。来る創立一五〇年までには全巻が刊行

されることになっていますが、青木先生の情熱とバイタリティーがなければ、とても現在の軌道を敷くことはできなかったと思います。

青木先生の学問に対する真摯な態度と学生に対する愛情は、誰しも忘れることができません。感謝しても感謝しきれない青木先生を失ったことは、世の常とはいえ、悲しみに耐えません。先生のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご家族の平穏をお祈り申し上げます。

平成二五年一月一〇日